



春興
新

5
 6590
 25

春興

土佐高智 平等社中
 福香

女之

すのこむ小者のうきや柳のた
 花の芽柳をいふ流杭
 花の内金目定め才子短
 との唯小者の耳も立り
 若さ二月しきぬこれの
 高の被未平のめかけ控
 けししし鶉衣平のや
 けい遠くぬのくの時
 ふよ入て寝のやれまま
 とくへか落し富のどん
 素人の私子島あぐま上り
 輪まき平太山筒の寸し
 とくか一際きり有明
 波羅密行か湯杖を又
 どのころと抱てや子の位も
 石の茶土賣の舞臺ひす
 約木のまもり木もあひねり
 田あか平あかあ口

湫水 魯竹 佳友 如泉 北雨 獨笑 菅松 柳枝 芦江 如鋼女 松雨 舟涼 舟蒼

節操也様こちりう満のおと
 西月め々せよゆき子信が
 篋をも春平柳くまんで女の時
 京茶て炊くぬ日ゆ座のむ
 若夫賢る男のうす春の
 藤へいよ上れがゆて様二羽
 下流片足泥とささる根岸が
 状若平小松たのめやをる
 藁入と乃つれりゆ控り
 鶉の身て這入や花一芥
 生雲の病は祝者の刀くれ
 いろりと花えもさや福毒汁
 ちの名もいと行教へる柳う
 新めより登てて乙女を通引り
 度接るあやや床室の極木板
 きん几中をえわあく一破伝ひ

普尔 獨笑 慈施 柳枝 如鋼女 松雨 如泉 魯竹 佳友 枝等 潤水

嘉永六年五月